

「出題の意図」

| | |
|--------------------|---|
| 選抜区分 | 平成 31 年度 （選抜区分：AO 入試） 地域創生学群 地域創生学類 （科目名：1 次試験：模擬授業・レポート／2 次試験：集団討論・個別面接） |
| 出題の意図 (評価のポイント) | <p>【出題の背景】</p> <p>地域創生学群では、地域の再生と創造を担う人材育成を目指し、実践と理論の両立を図りながら、地域社会における課題解決に必要なスキルや知識の習得を促している。そこで、今回の AO 入試 1 次選考では、これまでの地域再生に対する考え方や地域課題解決の取り組みに対する問題提起とともに、時代の変化を踏まえた今後の取り組みにおける姿勢や態度について、地域創生学群での学び方に関連づけて模擬授業を行った。</p> <p>また 2 次選考の集団討論では、「文化」をテーマに取り上げた。「文化」は地域で多様な人々と関わる上で鍵となる一方で、普段意識することは少ない。そこで「文化」の概念やそのメリット・デメリットについて少人数グループで考えてもらった。</p> <p>【求める能力】</p> <p>AO 入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めているため、1 次選考のレポートでは、実際に地域創生学群での実践や座学を通じて学ぶことをイメージした模擬授業内容に対する理解度をもとに、そこで必要となる思考力の有無を見極めることとした。</p> <p>2 次選考の集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを的確に表現できているか、またコミュニケーション能力の程度、課題に対する主体的関わりを試した。さらに個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>【解説】</p> <p>1 次選考のレポート作成のポイントは以下の 3 点で、それぞれの内容が簡潔にまとめられている答案を高く評価した。また、レポート全体の流れやバランスが良い答案については更に高い評価とした。</p> <p>1 点目は、冒頭で投げかけた「なければ、つくればよい」と「ないものはない。あるもので考える」の共通点について理解できているか。</p> <p>2 点目は、いくつかの事例から、失敗の本質を踏まえつつ、課題解決のため必要となるポイントについて理解できているか。</p> <p>3 点目は、これまでとは前提条件が大きく異なるこれからの時代において求められる姿勢や態度について理解できているか。</p> |